

都議選西多摩選挙区 数野はじめ候補が健闘

― 当選は民主・島田氏、自民・林田氏

12日に投開票がおこなわれた都議会議員選挙・西多摩選挙区で、日本共産党の数野はじめ候補は8633票、得票率8.46%を獲得。善戦健闘しました。当選は島田幸成氏（民主）、林田武氏（自民）でした。

今回の都議会議員選挙は、マスコミがこぞって「政権選択選挙の前哨戦」という位置づけで報道をおこなう中、日本共産党は、都議会では民主党は自民・公明と同じく石原知事の与党であり、日本共産党の前進こそが、ムダづかいをなくし、福祉・くらし・教育の充実につながることを訴えました。この訴えが届いた有権者からは、従来の支持政党の枠をこえて、日本共産党の数野はじめ候補への支持が寄せられました。

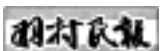
しかし、立候補の遅れなどにより全有権者規模で訴えを届けきるところまで選挙運動が届かなかったことも事実であり、得票数を伸ばす善戦となったものの、得票率は前回は下回る結果となりました。

民主の島田氏が前候補中トップの得票を得、逆に自民党の候補2名の合計得票が大きく減る結果となったことは、自民・公明政権への有権者の強い批判と「政治を変えたい」との強い思いの表れだと思えます。

実際には民主党は、国政でも、改憲・消費税のみ・財界からの企業献金への依存など、自民党と共通する基盤の上にたつ政党です。有権者の「政治を変えたい」の願いを実現するためには、財界・大企業にものが言え、国民の立場でがんばれる日本共産党が前進することが必要です。

来るべき総選挙にむけ、このことを全有権者へ届け、なんとしても勝利するためにさらに力をつくす決意です。

名前	党派	得票数	得票率	得票数・前回比(党派別)	率・前回比
数野はじめ	共産党	8,633	8.46%	+ 170	- 1.08ポイント
島田幸成	民主党	当 48,203	47.26%	+ 25,258	+ 21.40ポイント
林田武	自民党	当 27,079	26.55%	- 12,203	- 20.28ポイント
はたなかかつよし	自民党	17,397	17.06%		
角田豊治	無所属	688	0.67%		

 2009年7月19日 発行 羽村民報編集委員会 責任者 野崎 衷
No.945 電話 579-2132 Fax 579-2106

日本共産党羽村市委員会は、羽村市議団の活動などについて報道しました。

教育委員会から羽村民報へ記事訂正 の要求届く 指摘に答えます

去る6月29日、羽村市教育委員会・教育長 角野征大氏から羽村民報発行者の野崎衷（野崎衷と名前を間違えて）あてに「2009年6月28日発行『羽村民報』No942における記載内容の誤りの指摘及び記載内容の訂正要求について」という文書が届けられました。紙面をつかって、この指摘に答えたいと思います。

羽村民報の記事が間違っているとの指摘 羽村市教育委員会から

まず文書には、こう書かれています。

標記の件について今回誤った報道がなされ、今後「羽村市公立小・中学校一貫教育校検討委員会」を開催するにあたり、会議の運営に支障を来す恐れがあるとともに、市民等の誤解を招く恐れがあるため、下記のように記載内容の誤りの指摘及び記載内容の訂正を要求いたします。

羽村民報は、日本共産党羽村市委員会が責任をもって編集・発行しているもので、その記事の内容については正確さと分かりやすさを心がけております。No.942号は小・中一貫教育校について報道したものです。具体的な指摘について、以下、答えたいと思います。

1. 「教育委員会の姿勢を示したものではない」との指摘について

最初に、教育長はこう指摘しています。

1 「・・・実施先にありきですすめてしまいたい、という教育委員会の姿勢が目立ちました。」とあるが、この検討委員会の検討内容は、まだ教育委員会に示されていないもので、検討委員会の検討過程のことである。したがって、この時点で教育委員会は何の姿勢も示していないことから、明らかにこの記載は誤りである。

ここで、まず、「教育委員会」の組織がどうなっているのかを見てみましょう。裏面・図1のように、教育委員会は5人の教育委員で構成されており、1人が教育委員長、1人が教育長です。5人のうち常勤者は教育長だけであり、そのもとには、教育委員会事務局がおかれて、教育委員会の日常的な事務はここで担われています。

次に、「小中一貫校検討委員会」（以下、検討委員会）の組織を見てみましょう。図2のように、検討委員は15人おり、委員長、副委員長がおかれています。その他に、5人の事務局員などがおかれています。

注目していただきたいのは、教育委員会事務局の主要メンバーと、検討委員会の主要メンバーは